



第85回 日本公衆衛生学会総会

シンポジウム78

(国立保健医療科学院 企画シンポジウム)



地域保健における“伝える力”の進化：科学的知見を社会的合意につなげる実践知（国立保健医療科学院企画）

10月31日(土) 8:30 ~ 9:45

京王プラザホテル5F コンコードC(第4会場)

(東京都新宿区西新宿2-2-1)

座長： 上原 里程 (国立保健医療科学院 次長)
清野 薫子 (国立保健医療科学院 防災・公衆衛生レジリエンス研究センター)

演者：・健康情報はいかにして住民の手に届く～「しまねMAMEインフォ」を通して明らかになったこと

名越 究 (島根大学医学部環境保健医学講座 教授)

・AI時代にこそ求められる伝える技術：基礎からナッジ理論の応用まで
福田 吉治 (帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授)

・「伝える」を保健活動として実装する一対人支援における実践
奥田 博子 (国立保健医療科学院 統括研究官)

概要： 地域保健において、科学的知見を住民や関係者の理解と合意につなげることは、公衆衛生実践の中核的課題である。行動科学や政策学などの知見を踏まえ、地域保健の現場で科学的知見をどのように共有し、意思決定や合意形成に結び付けるかを検討する。また、多様な地域・現場の実践知を統合し、科学的根拠を地域社会の理解と合意につなげる公衆衛生の実践的アプローチを共有することで、「伝える力」の進化に向けた方向性を探る。

(注) 演者、報告内容などは事前の予告なく変更することがございます。